

2020年度 社会福祉法人ファミリーユ高知の全事業

日中支援
夜間支援

① 高知ハビリテーリングセンター

事業所名	事業名 (定員)	事業説明	サービス提供時間	職員の職種・員数
障害者支援施設 多機能型→定員40名	自立訓練(機能訓練) 20	利用者が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、1年6ヶ月間にわたり、身体機能又は生活能力の維持、向上等のために必要な訓練を行う	月曜～日曜 9:00～15:00	管理者:1名 サービス管理責任者:1名 生活支援員:1名以上 看護職員:1名以上 理学療法士 又は作業療法士:1名以上
	自立訓練(生活訓練) 10	利用者が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、2年間にわたり生活能力の維持、向上等のために必要な支援、訓練を行う	月曜～日曜 9:00～15:00	管理者:1名 サービス管理責任者:1名 生活支援員:1名以上
	生活介護 10	利用者が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、入浴、排せつ及び食事の介護、創造的活動又は生産活動の機会等の提供を行う	月曜～日曜 9:00～15:00	管理者:1名 サービス管理責任者:1名 生活支援員:1名以上 看護職員:1名以上 医師(非常勤)
	施設入所 40	施設に入所する利用者に、主として夜間において、入浴、排せつ及び食事等の介護、生活等に関する相談及び助言を行う	365日 24時間	管理者:1名 生活支援員:1名以上 管理栄養士:1名 サービス管理責任者:日中サービスと兼ねる
	短期入所(ショートステイ) 2 空床	利用者の身体その他の状況や環境に応じて、入浴、排せつ及び食事その他の必要な保護を行う	365日 24時間	管理者:1名 生活支援員:1名以上 管理栄養士:1名
アルベータ 多機能型→定員60名	就労移行 10	2年間にわたり、生産活動その他の活動の機会の提供を通じて、就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練を行う	月曜～日曜 9:00～16:00	管理者:1名 サービス管理責任者:1名 就労支援員:1名 職業指導員:1名以上 生活支援員:1名以上
	就労定着支援	雇用された障害者に対して、雇用日の6ヶ月後から3年間、就労の継続を図るために必要な事業所の事業主、障害福祉サービス事業者、医療機関等との連絡調整を行う	月曜～日曜 9:00～17:00	管理者:1名 サービス管理責任者:1名 就労定着支援員:1名以上
	就労継続支援B型 50	利用者に就労の機会を提供するとともに、生産活動その他の活動の機会の提供を通じて、その知識及び能力の向上のために必要な訓練を行う	月曜～日曜 10:00～15:00	管理者:1名 サービス管理責任者:1名 職業指導員:2名以上 生活支援員:2名以上
相談支援事業所(障害者・児)		利用者又は利用児の保護者の意思及び人格を尊重し、自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、福祉サービス等利用のためのサービス等利用計画の作成・見直しを行う	月曜～金曜 9:00～17:00	管理者:1名 相談支援専門員:1名以上
はるのハビリホーム	共同生活援助(グループホーム) 36	利用者の身体及び精神の状況や環境に応じて、共同生活住居において相談、入浴、排せつ又は食事の介護その他の日常生活上の援助を行う	365日 24時間	管理者:1名 サービス管理責任者:2名 生活支援員:1名以上 世話人:6名
キュール	放課後等デイサービス 10	利用児が生活能力の向上のために必要な訓練を行い、及び社会との交流を図ることができるよう、置かれている環境に応じて効果的な訓練を行う	・放課後(月曜～金曜) 13:30～19:00 ・学校休業日 9:00～17:00 ※8:30～9:00の延長あり ・学校代休日 10:30～18:30	管理者:1名 児童発達支援管理責任者:1名以上 児童指導員 又は保育士:2名以上

② しごと・生活サポートセンターウェブ

事業所名	事業名 (定員)	事業説明	サービス提供時間	職員の職種・員数
OWNパス	就労継続支援A型 10	利用者を雇用して就労の機会を提供するとともに、その知識及び能力の向上のために必要な訓練を行う	月曜～土曜(祝日開所) 9:00～16:00	管理者:1名 サービス管理責任者:1名 職業指導員:1名 生活支援員:1名
スウェル	就労継続支援B型 40	利用者に就労の機会を提供するとともに、生産活動その他の活動の機会の提供を通じて、その知識及び能力の向上のために必要な訓練を行う	月曜～土曜(祝日開所) 9:00～16:00	管理者:1名 サービス管理責任者:1名 職業指導員:1名以上 生活支援員:1名以上
相談支援事業所		利用者の意思及び人格を尊重し、自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、福祉サービス等利用のためのサービス等利用計画の作成・見直しを行う	月曜～金曜 8:30～17:00	管理者:1名 相談支援専門員:1名以上

2019年度 社会福祉法人ファミリーユ高知法人本部 事業報告

第1回理事会

日時：2019年5月31日（金）18：00～19：30

場所：しごと・生活サポートセンターウェーブ 3階地域交流ホール

議題：

監事監査報告

- 1 平成30年度事業報告（案）の件
- 2 平成30年度決算報告（案）の件
- 3 高知ハビリテーリングセンター定員変更の件（機能訓練・生活訓練・生活介護）
- 4 就業規則改正の件

5 評議員辞任に伴う後任評議員候補者選任の件

6 任期満了に伴う役員候補者選任の件

7 2019年度定時評議員会招集の件

報告事項 高知ハビリテーリングセンター旧棟屋根改修工事に係る入札結果について

評議員選任解任委員会

日時：2019年5月31日（金）19：30～19：40

場所：しごと・生活サポートセンターウェーブ 3階地域交流ホール

議題：

- 1 評議員選任の件（前田和彦氏）

定時評議員会

日時：2019年6月11日（火）18：30～19：30

場所：しごと・生活サポートセンターウェーブ 3階地域交流ホール

議題：

- 1 平成30年度事業報告の件
- 2 平成30年度決算報告の件
- 3 役員（理事・監事）改選の件

第2回理事会

日時：2019年6月11日（火）19：30～19：40

場所：しごと・生活サポートセンターウェーブ 3階地域交流ホール

議題：

- 1 理事長選任の件
- 2 常務理事選任の件

平成30年度 社会福祉法人ファミリーユ高知 事業報告

第3回理事会

日時：2019年9月27日（金）18：00～19：30

場所：しごと・生活サポートセンターウェーブ 3階地域交流ホール

議題：

- 1 2019年度1次補正予算の件
- 2 就労定着支援事業計画（案）の件
- 3 就業規則変更（始業時刻及び終業時間）の件

報告事項

理事長：業務執行状況報告

ハビリ：現状報告

第4回理事会

日時：2019年12月3日（火）18：10～18：20

場所：高知パレスホテル2階レストラン内個室『ラ・レーヌ』

議題：

- 1 アルバーテ就労継続支援B型運営規程改正の件
- 2 オウンパス運営規程改正の件

第5回理事会

日時：2020年3月23日（月）18：00～19：30

場所：しごと・生活サポートセンターウェーブ 3階地域交流ホール

議題：

- 1 2020年度事業計画（案）の件
- 2 2020年度予算（案）の件
- 3 2019年度2次補正予算（案）の件
- 4 就業規則及び給与規程改正の件

報告事項

理事長：業務執行状況報告

2019 年度事業報告



2020 年 5 月 28 日

2019年度しごと・生活サポートセンターウェブ 総括

2019年度、最も力を入れたことは、『利用者や私たち職員のやりがいを見つけ、障害の有無に関わらず、自分らしく働いていけること』でした。

利用者の『やりがい』づくりのためB型スウェルで取組んだことは、利用者担当者制を導入し一人一人と関わり、利用者が思い描く夢や希望に寄り添い具体的に動いてみようという活動でした。活動内容としては、企業見学や実習、ウェブ以外での農園（ハウス）活動などがあり、それらの活動から利用者自身が課題に気づき、スウェルでの作業を見直す機会にもなり、結果としてそれらが皆のやりがいへと変わったように思います。A型OWNパスの取組みとしては、3年目を迎えた1名の“スタッフ”（A型OWNパスでは利用者をスタッフと呼んでいます）が初めて一般就労へステージアップできたことで、一緒に働いていた“スタッフ”たちが一般就労を身近に感じ、夢ではなく現実のものとして捉えることができました。これまでも実施していた職員主催の座学ではより一層真剣に学ぶ姿勢が見られ、「仕事とは？」「自分らしく働き続けるためには？」ということを考える大切な機会となりました。

職員の『やりがい』については、2ヵ月毎の事業別PDCAにおいて、職員の支援や作業の構成などで「やってみたい」「こうしてみたい」という気持ちを汲み、まずは自分で挑戦してみることを第一に実践してきました。結果的に失敗することもありましたが、それらを皆で共有し、失敗を次に活かせるようチームで関わり、職員一人一人が自分で考え組み立てながら働くことができるようになったと感じます。

職員が仕事にやりがいを感じることで、利用者のやりがいへと繋がり、それらが化学反応することで、前年度よりも延べ利用者数が全体として200名程増加し、支援費収入の増加へと繋がったと考えています。また様々な支援活動を工夫し実践していくことで、安定した作業収入を確保でき、B型スウェルの平均工賃2万円の維持、A型スウェルでは平均労働時間5,6時間を維持し、自分らしく目標をもって働くことができたと考えています。

2020年度にはウェブ建設費借入金の返済が開始することもあり、より力強く事業を進めていく必要があります。具体的には、B型スウェルの延べ利用者数を上げていくことやA型OWNパスの“スタッフ”数を7名から10名まで上げることで、施設外就労を取り入れ作業収入を上げていくことなどが挙げられます。また2019年度に引き続き、働いている職員が元気で活発にやりがいをもって職務にあたってくれること、多種多様なサービスが展開されているハビリテーリングセンターと協働すること、利用者が『その人らしく希望をもって地域で自立した生活ができる』ことも大変重要だと考えます。そして企業や農家、地域の方々を巻き込みながらウェブから高知県全体に笑顔が広がる活動ができればと考えています。

しごと・生活サポートセンターウェブ
センター長 沼 慶子

その他の報告事項

職員数 (3月末時点)	12名 センター長（相談支援専門員兼務） 1名 副センター長（相談支援専門員兼務） 1名 相談支援専門員（支援員兼務） 1名 サービス管理責任者（うち1名支援員兼務） 2名 事務員（支援員兼務） 1名 支援員 6名 退職者 支援員1名 / 入職者 事務員1名
会議等	職員会 : 1回/月 経営戦略会 : 1回/月 ケース検討会・作業部会：隔週木曜
委員会活動	委員会活動は基本的に利用者とともに活動することを主とし、必要に応じて研修会や集会を開催 工賃向上 : 平均工賃2万円台維持、工賃評価表の見直し、改訂 防 災 : BCP作成、年2回の避難訓練の実施、備蓄や担架などの検討 広 報 : ふくらむ管理、ウェブ新聞発足準備 安全衛生 : 月毎健康チェック、感染予防、KTK 用度美化 : 設備管理、中庭のお花植え（朝顔、マリーゴールド、レンゲ）、車検 就労チャレンジ：企業見学、ウェブ外での作業調整 地域協働 : 地域で活用できる資源を考える（図書館の利用、マスクワークショップ）
年間行事	6月 移築1周年記念祭 8月 アイス会 10月 はるのStyle サツマイモ掘り 11月 防災訓練 12月 忘年会 1月 防災訓練 3月 農福連携谷農園実習、発表会
職員研修	<外部資格取得者> サービス管理責任者 2名 / 甲種防火管理者 1名 / ジョブコーチ 1名 <法人研修> 虐待防止と権利擁護 全員 / アンガーマネジメント 全員 <その他法人必須研修> 苦情解決セミナー 1名 / 感染症対策講座 1名
各報告件数	インシデント報告 8件 アクシデント報告 11件 事故報告 8件 利用者、ご家族からの苦情ご意見 0件 ▲上記報告のうち、21件は受託作業の不備により苦情やご意見を頂いたものであるため、作業を行ううえで職員利用者と共有し再発防止に取り組んでいる。 ▲事故報告書のうち、2件は受診をしており、うち1件は転倒による右上腕骨骨折であった。同様の事故が起きないよう環境の改善に取り組んでいる。

2019年度の取り組み

■総括 『ステージアップの促進と雇用者の維持』

オウンパスは開所3年を迎え、当初から「3年で一般就労へ」の目標を掲げ支援を行ってきましたが、今年度、初めて“スタッフ”1名の一般就労が実現しました。この“スタッフ”の一般就労への移行は共に働いているその他の“スタッフ”に大きな影響を与え、オウンパスにとっても、大きな第一歩となりました。また最低賃金の見直しや消費税の引き上げなど作業収入の減少が心配されましたが、受託先との価格交渉や新規取引先との交渉もあり、昨年同様の収入を維持することができました。

■目標達成

安定した支援費収入

支援費収入アップ

- 平均月利用者 145名
(2018年度 111名)
- 平均労働時間 5.6時間

一般就労へのステージアップ

一般就労が実現

- 3年経過利用者への関わり
- 企業への見学・実習
- ジョブコーチ導入
- 座学の導入

作業収入アップの強化

前年度よりも微増

- クリーニング以外の事業展開なども考えていたが、現状の作業をこなすことが大切であったり、一般就労を目指すにあたり、作業以外での活動が重要であることに気付くことができた。

■活動

- 企業見学8件、体験実施7件
- 合同面接会への参加・見学

■利用実績

- 3月末時点での登録者：7名
- 新規利用者：2名 知的障害1名、精神障害1名
- 利用終了者：2名
- うち一般就労者：1名（クリーニング事業所）

★登録者7名の障害種別（名）



特徴と強み

■一般就労へつなげた自信

3年目の集大成として一般就労へつなげられたことは“スタッフ”自身の励みとなり、見本となり、勇気や希望となった。

■一般就労へつながる難しさを経験

企業見学や実習など今年度は積極的に実施したものの、結果的に一般就労につながったのは1件のみ。その分、課題やその課題に向けた具体的な取り組みが分かった。

■“スタッフ”を育てるシステム

- 現場での課題解決、コミュニケーション
- 就労パスポート、自分の取り扱い説明書の作成
- 職業センターやハローワークとの関わり
- 一般教養や社会人としての座学

■恵まれた条件

- 建物の立地、作業しやすい環境
- 安定した作業収入
- ハビリテーリングセンター就労移行の活用

2020年度へ

《目標》

仕事をする責任、人としての成長を
“スタッフ”と共に

《具体的な目標》

■“スタッフ”を大切に考える

- まずは10名雇用をめざし、“スタッフ”が働き続けられる支援を考え、個々に合わせた支援を実践
- 支援力、支援費収入の向上へとつながる

■「仕事」について考える

- 一般就労移行のために必要なスキルを学ぶ

■利用者の魅力の再発見

- 様々な活動や企画を実施することで、作業以外での学びやつながりが増え、スキル向上や一般就労への架け橋づくりを実施

■職員の「やりたい」を実現

- 働くモチベーションの高揚と向上

2019年度の取り組み

■総括 『仕事を始める第一歩&続ける第二歩&踏み出す第三歩』

利用終了と新規利用者の入れ替わりが多くあり、登録者数としては減少したが、新規利用者の利用開始時の工夫や一人一人の利用者が利用日を増やせたことで延べ人数としては増加し、安定した支援費収入を得ることができました。また、個別の目標設定や利用者担当制の導入、ウェブ外での活動を通して、利用者のそれぞれの「やりがい」を創造できた、実りのある1年でした。

■目標達成

働き続けられる支援

利用者の「やりがい」を創造

- ・一人一人に関わる支援
- ・利用者担当制
- ・新工賃基準の採用
- ・利用者支払い工賃額の維持
- ・様々な機会の提供
- ・チームとしての活動

安定した収入

支援費収入UP

- ・平均日利用者 35.6名
(2018年度 35.1名)
- ・平均月延利用者 909.9名
(2018年度 897名)

作業収入キープ

- ・新規受託先の開拓
- ・受託費の改善交渉
- ・作業効率アップ
- ・スウェル外での作業

一般就労へのステージアップ

利用者の思いをカタチに

- ・一人一人に関わる支援
- ・企業見学や体験の実施
- ・様々な機会の提供

■活動

- ・ウェブ移築1周年記念祭、四国エリアフォーラム参加
- ・企業見学や農家との協働企画
- ・各委員会、部署での様々な企画

■利用実績

- ・3月末時点での登録者 69名
- ・新規利用者：13名 知的障害5名、身体障害2名、精神障害6名
- ・利用終了者：13名 希望や思いを聞きながら終了
- ・平均利用者工賃額：20,770円

特徴と強み

■柔軟な考えと行動ができる支援員の存在

利用者の思いをサビ管を中心に支援者それぞれが考え、支援者が勝手に限界をつくるのではなく、利用者を巻き込みながら支援ができる。「できない」ことよりも「なぜできないのか」という背景を利用者とともに考えられる。

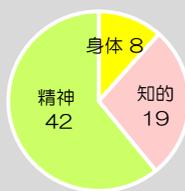
■働ける世代、働く能力のある利用者の存在

自分の思いや気持ちを伝えることができる利用者が多く、いつかは自立したいと考える利用者が多い。

★登録者69名の年代別(名)



★登録者69名の障害種別(名)



■恵まれた条件

- ・建物の立地、作業しやすい環境
- ・安定した作業収入

2020年度へ

《目標》

その人らしい就労・生活を、職員も一緒になって体感し考え進めていく

《具体的な目標》

■利用者を大切に考える

- ・利用者が働き続けられる支援を考え、個々に合わせた支援を実践
- ・支援力、支援費収入の向上へとつながる

■利用者工賃2万円キープ

■利用者の魅力の再発見

- ・様々な活動や企画を実施することで、作業以外の学びやつながりが増え、スキル向上や一般就労への架け橋づくりを実施

■職員の「やりたい」を実現

- ・働くモチベーションの高揚と向上

2019年度の取り組み

■総括 『支援の質の向上、業務の改善』

2018年度の反省から2019年度はいの町の委託を終了し、ウェブを利用していない利用者を外部の相談支援事業所へ移行し、件数を調整しました。今年度後半では、新たな体制を組み直し、更新やモニタリング時期の確認ができるシステムの導入、相談支援と事務、サビ管などチームで動く支援を意識し、利用者の利益を最優先にタイムリーにサービスを調整することができました。

■目標達成

相談支援のプロに

プロにはなりきれなくても、アマチュアでも大切なこと

- ・利用者ファーストの視点
- ・利用者の思いを中心においた支援の展開
- ・必要に応じたタイムリーなサービス調整

遅延のない業務遂行

業務を「追われる」から「終われる」へ

- ・業務のスリム化
 - ・業務の見える化
 - ・チーム化
- ⇒利用者の利益を考えられる
⇒孤立・孤独から安心へ
⇒やりがい・達成感へ

「あったら良いな」活動

利用者の思いをカタチに

- ・一人一人に関わる支援
- ・様々な機会の提供
- ・様々な情報の提供

■活動 ・ウェブ移築1周年記念祭、四国エリアフォーラム参加

- ・高知市の研修会、連絡会に参加

■利用実績 ・3月末時点での登録者：89名

- ・新規利用者：7名
- ・利用終了者：140名から89名まで調整

特徴と強み

■スウェル、OWNパス利用者が多い

サビ管、支援員とともにチームとして、時には広い視野で、時には狭い視野で関わり、支援することができる。

★登録者89名の利用先(名) ★登録者89名の担当別(名)



■職務にやりがいや達成感を感じられる

業務が見える化し、チームで協働することを意識しているため、状況把握がお互いに可能となった。またそうなることで職務に対する責任ややりがい、達成感などを感じ、チームとして共有ができる。

■恵まれた条件

- ・建物の立地、支援しやすい環境
- ・ハビリテーリングセンターとの協働

2020年度へ

《目標》

寄り添い、伴走する支援

《具体的な目標》

■利用者を大切に考える

- ・利用者の思いに寄り添い、適切な社会資源の紹介やサービスの調整を実施

■相談支援の質の向上

- ・「権利擁護」について学び、各サービスの内容や機能、各機関との情報交換に努める

■業務の明確化

- ・常に業務整理と時間管理を意識し、チームで協働し、1ヵ月ごとの更新やモニタリングを確認する会の実施

2019 年度事業報告

高知ハビリテーションセンター



2020 年 5 月 28 日

2019年度高知ハビリテーリングセンター 総括

2019年度の高知ハビリテーリングセンター（以下「ハビリ」と表記）は、本来目指していたハビリのコンセプトである「ひとり一人に寄り添い、その人らしい地域での生活を支援する」通過型施設としてあるべき姿の再確認と、そこに向かうスタッフの意識変化が起こった1年でした。あるべき姿とは各事業が果たす役割（アウトカム）を明確に示し、結果を導き出すプロセスをハビリ全体でサポートした事、またそこに立つスタッフに意識変化が起こり、利用者の人生について真剣に考え、支援の提案と実行ができたことだと考えています。最も大きな変化を遂げたのは障害者支援施設であり、ベッド稼働率が50%まで下がりましたが、他の障害者支援施設ではない通過型訓練事業としての再構築をはかり稼働率アップの見通しを立てることができました。具体的には長期にわたって入所していた生活介護の4名を、その方の状態に合った生活空間に全員移行し、代わって社会的ニーズの高い自閉症者4名の入所をすすめ機能をチェンジしました。また、1カ所で行っていた日中訓練（機能訓練と生活訓練）を別々の場所に移し、多様化していた障害特性・訓練目的を整理し、それぞれの目的に合った訓練プログラムを提供できる空間作りを行いました。

就労継続支援B型では居場所であった空間を、スタッフと利用者が共に「働く」事を大切に考え、受注内容の見直しや自助具開発、体調・時間管理を意識する仕掛けを取り入れ、働く達成感や喜びを味わう職場に変化してきました。こうした働きかけは変化に弱い利用者にとって負担をかけることになりリスクが高かったのですが、丁寧な説明と対話を繰り返し行うことで利用者自身が「働くことの意味」を考えるきっかけとなり、「ハビリで求められていると思った」などの言葉が聞かれ、利用日数が増える変化につながりました。

スタッフにとって変化にチャレンジする負担は大きかったと思いますが、大きな事故等なく過ごせたのは、縦割で無関心組織から、横断的で我が事丸ごとで考えるONE TEAMな組織に変化してきたためではないかと思えます。まだまだ組織としては成熟していませんが、障害者の皆さんと一緒に変わっていく喜びを繰り返し体験することでハビリのビジョン「すべての人が、自律・自働でき、一人ひとりが描く自己実現をかたちにする」に近づき、その循環が地域に広がりこのハビリが地域で求められる社会資源になっていくと考えています。今年度は、福祉サービス事業収入が減少し赤字決裁となりましたが、来年度は、この一年で作り上げた通過型施設としての各事業のあり方を根付かせ利用率向上に努めていきたいと考えております。

高知ハビリテーリングセンター
センター長 西岡由江

2019年度の取り組み

■総括

2019年は高知県内全ての回復期病院への営業活動を実施し、県下唯一の機能訓練事業の啓蒙を実施し、減少していた登録利用者は徐々に増加する見通しを立てることができました。訓練室内での機能回復訓練はもとより、公共交通機関の利用訓練や家屋調査、次の生活場所や就労・復職先の支援者との連携など、外部での活動も積極的に実施した1年でした。利用者の減少により、定員数は25名から20名に見直しましたが、徐々に利用者の増加に繋がっています。

■目標達成

支援の質の向上

- 身体機能訓練の見直し
⇒一人ひとりの利用者の課題にマッチした効果的なプログラム内容を選定
- 施設入所職員との協働
⇒排泄や入浴等の生活場面にADL評価訓練として介入

各職種の専門性を発揮

- 理学療法士が中心となりプログラム立案
⇒プログラム目的や内容を訓練支援員に分かり易く提示し、セラピスト不在時でも対応できる体制
- 個別担当制の導入

経営基盤の強化

- 積極的な営業活動の実施
⇒初期相談の段階から医療機関に出向き家族や支援者と密な情報交換
- ⇒体験利用制度を利用した方は100%利用開始

- 利用実績
- 新規利用者 16名
 - 利用終了者 18名

■利用者の推移



屋外歩行訓練



高次脳グループ訓練

特徴と強み

• 県下唯一の機能訓練施設

1年半の期間を活かした継続的な機能回復訓練と、働くことへの準備性を上げる仕組み作りを行い、地域に必要とされる事業へ。

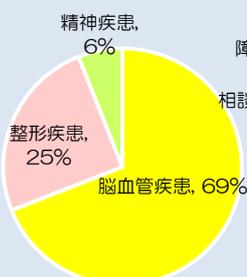
• 地域のバリアを一緒に体験

医療機関でのバリアフリーの環境で慣れた状態で入所された利用者が、今後地域で閉じこもり生活とならないよう、施設内や屋外の移動、公共交通機関の利用、買い物などの外出訓練を積極的に実施。

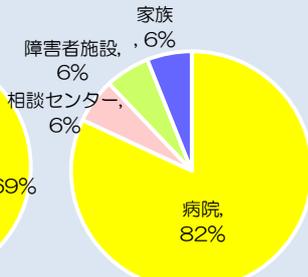
【新規利用者 16名】

【終了者 18名】

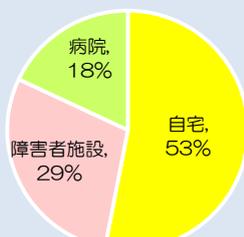
障害種別



紹介元



転機先



2020年度へ

《目標》

利用者ひとり一人の想いに寄り添い
地域生活・就労に向かう自己決定を支えます

《具体的目標》

- 自己決定ができる訓練プログラム提供
 - 自主トレメニューの見直し
(プログラムの意味や目的、内容の視覚支援)
 - 訓練成果の可視化とフィードバック
- 支援員の教育体制の充実
 - 事業所内研修やケース検討会の実施
 - モデル事業所見学とハピリ内での模倣
- 地域生活や就労に繋げる支援力強化
 - 就労事業への移行促進と法人内連携の強化

2019年度の取り組み

■総括

機能訓練とともに自立訓練として一体的に運用していた生活訓練ですが、2019年12月より機能分化しました。1ヶ所で開催していた訓練室を別の場所に移し、多様化していた障害特性・訓練目的を整理し、それぞれの目的に合った訓練プログラムを提供できる環境を作りました。地域からの利用ニーズが高い事業であることを再確認し、定員数は9名から10名に変更しました。

■目標達成

支援の質の向上

- 生活課題に対応した新たな訓練プログラムの導入
⇒掃除・入浴など日常生活の支援を施設入所と協働
⇒接遇やビジネスマナー、コミュニケーションなど生活訓練らしいプログラムの導入

各職種の専門性を活用

- 専門職（Ns、OT）を配置
⇒日々の体調管理、健康管理
⇒個々の課題に対する評価の充実と課題解決の実践
⇒課題に応じた専門職が対応できるように担当制の導入

経営基盤の強化

- 高次脳機能障害、知的・精神疾患の障害理解と受け入れ
⇒多様化する障害に対応
⇒特別支援学校からの卒業受け入れ



- 利用実績 ・新規利用者：7名
・利用終了者：4名

■利用者の推移



パソコン課題(プレゼン訓練)



園芸グループ

特徴と強み

・多様な訓練プログラム

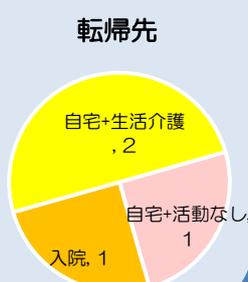
園芸やアート、障害者スポーツ、趣味活動など、集団の力動を活かしたグループ活動を積極的に実施

・リアルな社会生活をイメージ

特別支援学校専攻科の機能を果たす当事業では、単純な機能回復訓練だけでなく、礼儀作法や一般常識といった社会参加場面で必要とされる能力の向上や、外出訓練等を活用して様々な人生経験を積み重ね、成人へのステップアップを支援する。

新規利用者7名

利用終了者4名



2020年度へ

《目標》

社会生活のリハーサルを繰り返し
実生活で活かされる能力の獲得を支援

《具体的目標》

■障害特性に合わせたプログラムの充実

- 基本プログラムの確立
- スケジュール化（日常生活能力、自己管理能力、社会生活能力、自己理解、地域生活移行など）
- ハビリの環境を活かした園芸活動

■訓練室外での活動充実

- 実生活場面におけるプログラムを施設入所と協働
- 目的をもった外出活動の推進
- 生活だけでなく働く希望を叶える

■地域のニーズに準じた事業運営

- 医療や福祉にニーズに柔軟に対応（医療観察処遇患者の受け入れ等）

2019年度の取り組み

■総括

2019年度の生活介護は、県リハ時代から長期的に施設入所と併用利用している4名の利用者の方向性について検討することからスタートしました。年齢や疾患などを考慮し、地域の社会資源と照らし合わせ、よりふさわしい支援先に全員繋ぐことができました。また、グループホームに入居している就労継続支援B型を利用する自閉症者に対し、日中活動を生活介護に移行し、障害特性に合わせた個別支援の提供に努めました。定員数は利用者の増加に合わせて6名から10名へ変更しました。

■目標達成

創作・生産活動の充実

- ・創作活動を積極的に実施
⇒余暇や趣味活動の定着
⇒ハピリ芸術展の開催
⇒社福のパンフレットのデザインに採用
- ・公園清掃委託や野菜類の販売
⇒一部利用者の収入アップ

新たなプログラムの実践

- ・机上課題やレクリエーション、屋外活動などの実践
⇒認知機能課題
⇒パソコン操作
⇒夏のプール
⇒梅ジュース作り

ふさわしい生活の場を提供

- ・長期利用者の方向性検討
⇒本人・家族への丁寧な説明、次の支援先と連携し退所支援を実施
- ・自閉症者の入所一体化支援へ機能チェンジ

■利用実績

- ・新規利用者：3名（就労継続支援B型より移行）
- ・施設入所終了者：4名

終了者	年齢	性別	退所理由	在籍期間	転帰先
Aさん	64	男	加齢とともに全介助までレベルダウン	9年8か月	障害者支援施設
Bさん	61	男	認知症の進行（徘徊）	4年5か月	認知症グループホーム
Cさん	58	男	在宅復帰の目途が立つ	5年4か月	自宅、生活介護利用
Dさん	28	男	在宅復帰の目途が立つ	5年8か月	自宅、生活介護利用

特徴と強み

・利用者の障害特性に合わせた支援

3名の利用者は屋外活動として施設内の除草や畑作業、公園清掃などの生産性のある活動が定着。屋内活動では認知面や手指の巧緻性への働きかけを実施

・生活支援と一体的な運用

グループホームに入居している自閉症圏の利用者は、生活面における様々な課題を抱えていることが判明した。そこで、日中活動と生活面を支える職員がより密に連携し一体的に支援することで、より良い生活の実現に繋がる視点で、生活の場を施設入所に変更する方向性とした。

・支援の実際（自閉症に特化）



梅ジュース作り



手作り野菜の販売



個別空間の配慮

2020年度へ

〈目標〉

安心・安全・心地よく、時にしんどさも共有しその人らしい生活の実現を支援

〈具体的目標〉

- 個性を重要視したオーダーメイド支援
 - ・多様な障害特性の学習とカンファレンスを実施
 - ・支援のポイントを施設入所職員と共有
 - ・家族との連携を重視
- 施設内活動の充実
 - ・居室内で実施できるプログラムの発掘
 - ・新たな生産活動へのチャレンジ
- 通過型施設としての在り方を模索
 - ・その人らしさが発揮できる場所へ繋ぐ
 - ・地域の社会資源と顔をつなぎ移行先の選択肢を広げる

2019年度の取り組み

■総括

二交代を実施している施設入所では、職員が集まる職員会が存在せず、伝達ノート等での一方向性の状況共有がなされてきました。そこで、今年度は定期的な「部会」を開催し、不規則な勤務の中で経験・知識や考え方の違う職員の様々な想いを発信し意見を協議する場を持ちました。部会を行うことで業務マニュアルや勤務体制を見直し、それを共有することで小さな疑問でもお互いに確認し合い、利用者にとって最善の支援が何かを考え実践する体制ができました。その中で、職員から問題提起のあった「統一ケア」「職員教育の在り方」「他事業との協働」「ノーリフティングケアの導入」など、次年度にも繋がる課題が提案されましたので、今後も引き続き検討を重ねていきます。

■目標達成

利用者の個別性に合わせた支援

- ・申し送りに日中訓練の三事業のサビ管と支援員が同席を開始
⇒支援方針の共有とタイムリーな疑問の解消
- ・部会でのケース検討や困難事例のケース会の適宜開催
- ・体験利用制度の新設

スキルアップと人材育成

- ・部会の新設と毎月の定期開催
⇒業務マニュアルを見直し職員間で統一
- ・職員の充足（新規採用3名）
- ・栄養指導の再開（加算算定）
- ・研修参加については今後の課題

他事業との連携強化

- ・入浴、掃除、洗濯などの生活行為の支援を日中訓練事業と協働
⇒生活の質の向上に繋がる
- ・訓練成果を生活の場で実践に繋げることは今後の課題

- 利用実績
- ・新規利用者：20名
 - ・利用終了者：24名（在宅復帰率63%）
 - ・体験利用者：17名（うち16名は新規利用開始）

■施設入所者数の推移



特徴と強み

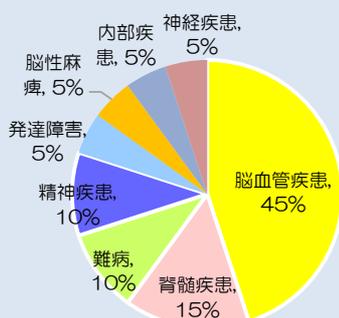
・評価と身体介助

入所後の利用者の観察や能力面の評価を通して必要な支援について検討することができる。また、看護師による医療的なケアや、支援員によるADL・IADL面の介助と自立支援が展開できる。

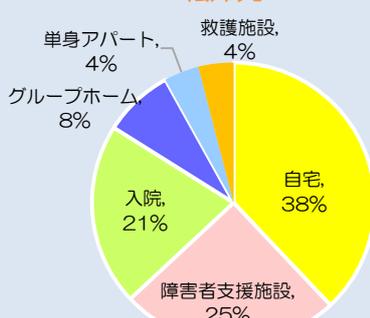
・ベッドコントロール

利用者の障害種別としては前年度とほぼ同様。利用者の転帰先について計画性をもって支援するよう心掛け入退所者数のバランスが回復。

障害種別（新規利用者）



転帰先



2020年度へ

《目標》

利用者がより主体的な生活をおくられるよう自己決定を尊重した生活支援を行います

《具体的目標》

- 生活場面における自己決定を支援
 - ・健康、生活、人生を利用者自身が選べるよう必要な情報や機会を提供
- 新人を育て、教える側も育つ風土作り
 - ・新人教育プログラムの更なる改良
 - ・業務の可視化と見直し
- 支援者の身体的負担を軽減
 - ・ノーリフティングケアの実践と必要なハード面の整備
 - ・他施設を見学と模倣
 - ・近森会グループの教育体制の活用

2019年度の取り組み

■総括

2019年度も短期入所では様々なニーズをもつ利用者に対して柔軟な対応を心がけました。取り組みとしては、年度はじめに利用登録者の見直しからスタートし、1年以上利用が無く再開予定のない利用者への確認を行い、登録者を143名から63名まで整理しました。また、4月から短期入所の利用者への送迎を中止しましたが、利用者減には至っていません。新型コロナウイルスの予防対策のため、2020年3月から短期入所の受け入れはストップしています（緊急対応には応じます）。

■目標達成

利用者の個別性に合わせた支援

- 施設入所の職員が利用者の障害特性を理解し関わる
⇒適切な環境やケアの提供
- 特別支援学校の実習生に対応
⇒卒業後の入所に繋がる

利用時間の有効活用

- 生活介護の登録者への日中活動サービスの提供
- 就労継続支援B型を併用している利用者の準備や送り出し実施

空床状況に応じた柔軟な対応

- 1日平均4.8人の利用実績
⇒約20床の空きベッドの稼働率を上げることに貢献
- 空床状況を関係機関に情報発信し適宜支援者からの相談に対応

- 利用実績
- 年間利用実人数：51名
 - 新規利用者：14名

特徴と強み

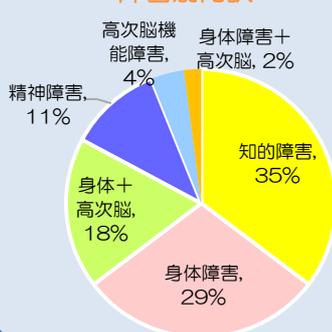
■様々なニーズへの対応

利用の理由としては介助者である家族が不在になるため、将来的な一人暮らしやグループホームへの転居に向けた練習、家族のレスパイト、精神面の安定やリフレッシュ、住宅改修中の生活場所の確保、施設入所から他事業所への移行までの待機場所など、多様な要望に対応

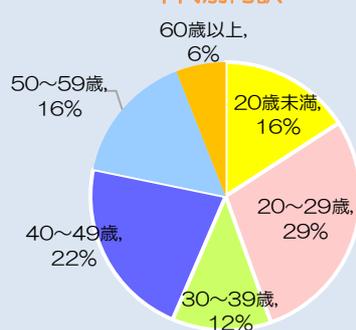
■地域から必要とされる社会資源

短期入所の受け入れ先は高知市内で12ヶ所存在するが定員1名の事業所も多い。またバリアフリー環境で多様な障害特性に対応できる当事業所は、在宅生活の継続を支える貴重な社会資源と思われる。

障害別内訳



年代別内訳



2020年度へ

《目標》

必要な方に必要なサービスを提供

《実績目標》

■新規利用相談への柔軟な対応

- 利用者数の増加に伴い、新規依頼を受けていくか検討

■短期入所期間の有効活用

- 夜間支援のみならず、日中活動の提供が必要な利用者への対応

■利用中断しているケースへの対応

- 中断しているケースの追跡とニーズの再調査

■外部の支援者との密な連携

- 相談支援事業所が当センターから外部へ移行することに伴い、より正確な情報収集と連携強化

2019年度の取り組み

■総括

利用者一人ひとりが力を発揮できる職場へ！を支援目標に、これまでも就職と就労継続を目指して来ましたが、2019年度は就労定着支援事業を開始した事で、より支援強化が図れる事となり、今後は利用者だけでなく企業への支援も強化していきたいと考えています。発達障害や難病等、利用者の障害も多岐に渡って来ており、様々な障害特性に対応していく為に職員一人ひとりが研修や資格取得に努め、現状に合った訓練プログラムの見直しが出来た1年でした。

■目標達成

職場定着率を向上

- ・10月より就労定着支援事業開始
- ・定着率：100%
(就労定着支援利用者：7名)
- ・就職者の6ヶ月定着率：100%
- ・定員に対する6ヶ月定着率
70% ⇒基本報酬最高額を維持
- ・就職率：100%

障害特性に応じた専門性向上

- ・事例に基づいた勉強会を実施
- ・ジョブコーチ資格取得
(川村健太：2019年11月取得)
⇒ 就労定着支援で加算算定

関係機関との連携強化

- ・職場開拓や就労定着の職場訪問を
関係機関と一緒に実施
⇒実習先、雇用先の拡大
- ・関係機関に来所頂き、訓練や利用者状況を定期的に共有
⇒新規利用者の相談機会増

■活動

- ・スピリットアート展（立体部門）で入賞
- ・利用者企画により研修（藍染体験）実施
- ・自主訓練、パン販売、県の委託業務（DM 発送作業）を導入

■利用実績

- ・新規利用者：6名
- ・利用終了者：4名（全員が一般就職）
- ・就労アセスメント：4名
- ・職場実習企業数：10社

特徴と強み

・就職に繋げる為に

実践訓練を重視し、職場実習を積極的に実施
⇒ 実習実績：7名（10社）

・就労継続の為に

雇用前のマッチングを慎重に実施
⇒ 実習後4名がトライアル雇用実施

・利用者受け入れの為に

センター内の移行だけでなく、関係機関と連携する事で紹介して頂く事や、障害を限定せず受け入れを実施
⇒ 1年間を通して定員超の登録者を維持

紹介元（新規）



障害種別



実習先企業



2020年度へ

《目標》

ひとり一人の働くを、就職から定着までサポート
障害者就労の窓口として頼られる存在に

《具体的目標》

■関係機関との連携強化

■就職率・職場定着率の維持向上

【就労移行支援】

- ・就職率：100%
利用者が力を発揮できる場所が最優先
- ・定員に対する6ヶ月定着率：50%以上
⇒ 基本報酬最高額を維持します

【就労定着支援】

- ・定着率：90%以上（転職支援含む）
⇒ 基本報酬額アップを目指します

■支援力強化

2019年度の取り組み

■総括

「居場所」から「働く場所」へ！を目標にこれまで課題とされてきた職員のジョブローテーションや情報共有、環境整備等を行いました。利用者に対しては働く事への意識付けや達成感が持てる取り組みを行うとともに、利用者のニーズを踏まえて望む生活に向けて適した事業所やサービスの変更等も丁寧に行いました。就労支援に特化した就労継続支援B型を目指す為の準備として2020年度に向けて就業時間の見直しや利用日数の設定等も行い、土台作りを段階的に行って来た1年でした。

■目標達成

支援力向上

- ジョブローテーションの導入
⇒職員同士が協力出来る体制を構築
- 朝礼、夕礼後の報告会を実施
⇒支援員間の情報共有
- 他事業所の見学を実施

利用者のステップアップ

- 「時間を守る」「利用日数アップ」の取り組みを実施
⇒利用者の仕事への意識向上
- 作業科、作業種目の整理
農作業・柚子作業：廃止
函折り作業：6社→2社
新作業を開始
⇒複数作業にチャレンジ

利用者を笑顔に

- 余暇活動として忘年会を実施し、皆勤賞、MVPを表彰



- 利用者のニーズを再確認し、希望するサービス、事業所へ変更

■活動

- 忘年会

《新作業》

木毛作業

農福連携：落花生殻剥き作業

■利用実績

- 登録利用者：73名
- 新規利用者：3名
- 利用終了者：16名
- 平均工賃額：14,129円



特徴と強み

• スキルアップの為に

様々な障害特性に合わせて利用者一人ひとりの力を発揮する為の自助具を製作

• ステップアップの為に

就労移行支援への移行や一般就労に向けてサポート
⇒ 就労移行支援への移行：1名
一般就労へ移行：2名

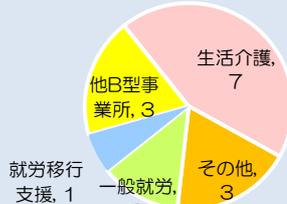
• 収入アップの為に

近森会グループからの業務や優先調達等により1年を通して作業を継続
単価の高い作業を計画的に受注

障害種別



退所先



2020年度へ

《目標》

楽しい事も厳しい事も共に味わい
職業人としての経験を積み成長できる“職場”へ

《具体的目標》

- 協力し合える職場づくり
 - ジョブローテーションの継続
- 支援力強化により達成感と工賃アップ
 - 適切な定員数の見極め
⇒稼働率維持
 - 作業内容、工賃評価表を見直し工賃アップを図る
⇒平均工賃アップ（基本報酬額アップ）を目指します
- 社会人として楽しむ
 - 忘年会や交流イベントの開催
 - 利用者向けの研修の実施

2019年度の取り組み

■総括

福祉サービスや様々な社会資源を利用するにあたって、本人または児童保護者のニーズをまずは聞き取り、必要に応じて情報提供やサービスを調整。担当者会やモニタリングにて利用状況を確認し、思いに沿った計画作成に努めました。定期的に連絡会等にも参加し、情報収集や同職種との繋がりを持つことができました。ケース対応や支援の進め方については部署内で共有はできましたが、事務作業のスケジュール化が出来ず支援費の請求が遅れるなど、事務処理面について課題が残りました。

■目標達成

自己決定の尊重

- ・ニーズの聞き取り
⇒本人または児童保護者への定期的な聞き取り
⇒利用事業所との情報共有における内容に応じた聞き取り
- ・適切な情報提供を行う
⇒本人の選択肢を増やすことができる

相談支援専門員としての研鑽

- ・高知市相談支援事業所連絡会へ参加
⇒制度等の情報収集
⇒行政担当や他相談支援事業所との繋がり作り
- ・研修会へ参加し障害理解を深める

働きやすい環境作り

- ・事務作業の可視化に課題
⇒「誰に、何を、いつまでに」を目に見えて意識し合える環境が作れず、追われる意識が強くなる

- 業務内容
- ・福祉サービス利用相談（面接によるニーズの聞き取り）
 - ・利用申請手続き（計画作成、区分調査※高知市在住者のみ）
 - ・担当者会開催、利用後のモニタリング、更新申請手続き
 - ・必要に応じて本人、保護者との面接、事業所との情報共有 など

■相談実績

	障害者	障害児
計画作成数	103 件	33 件
モニタリング作成数	206 件	42 件

特徴と強み

・対象は障害児から障害者まで

学童期から成人期へ、就職、一人暮らしなど様々なライフステージを迎える、障害児から者まで一貫して関わることができます。その時のニーズによって利用する福祉サービスは変わりますが、マネジメントを担う相談支援事業所が変わらないことで、軸がぶれずに支援を展開することができます。

登録者内訳（2020年3月末）



※相談支援専門員一人体制となり規模が縮小しますが、これまでよりも一人ひとり丁寧に関わることができるようにしていきます。

2020年度へ

《目標》

こどもから大人まで
ライフステージを見通したつなぎの支援を！

《実績目標》

■一人ひとりの自己実現をサポート

- ・変わる生活、ニーズに対して柔軟に対応
- ・可能な限り本人の意思決定を尊重
- ・その人に合った計画書を作成

■相談支援の質の向上

- ・権利擁護、障害特性の理解、面接技法などの研鑽を積む
- ・チーム支援を意識し、互いの役割を把握し調整する

■協働を心掛け働きやすい環境作り

- ・業務を可視化し、期日を意識でき、自身で業務管理ができるようになる

2019年度の取り組み

■総括

地域で暮らす事を実感して頂く為に、地域のゴミステーションへのゴミ出しを始めた事や日中活動・余暇活動として季節のイベント等を実施し、少しずつ地域と一緒に暮らす仲間との交流を深めて来ました。また、昨年度の経験を踏まえて体調管理や感染対策を行い、インフルエンザ感染者0で終える事が出来ました。2019年度末から退所者が多数予定されていた為、新規入居者の受け入れについて今後も引き続き検討していく必要があります。

■目標達成

個々に応じた支援

- 定期的にケース会を実施し、職員間で支援内容を共有
- ルール変更時には個別に説明し一緒に対応を検討
- 生活スキルアップに向けた個別目標については今後の課題

他部署や家族との連携強化

- 必要時に関係部署で迅速にカンファレンスを実施
- 外泊前後に家族と状況確認を実施し、情報を共有

余暇活動や日常生活支援の充実

- 余暇活動実施
- レストスペースを整備
- 紙パック自動販売機を設置
- 不燃物ゴミを地域のゴミステーションへ

■活動

- 余暇活動（カラオケ、ポッチャ、フラワーアレンジメント、パークゴルフ）
- バーベキュー
- クリスマス会

■利用実績

- 登録利用者：36名（満床）
- 新規利用者：1名（在宅より）
- 利用終了者：1名（65歳 養護老人ホーム）

特徴と強み

•利用者像

県からの利用者や自立訓練からステップアップで移行して来た利用者が多い為、身体障害、高次脳機能障害の利用者が中心
障害支援区分の軽度利用者が多い為、自律を目指して支援プランを作成しステップアップを図る事が可能



•環境と支援体制

包括型グループホームの為、必要な身体介護が可能
生活ニーズに合わせて居室タイプ（ユニット・マンション）が選択できる。

2020年度へ

《目標》

生活を楽しむ

ハビリホームで『地域で暮らす』を実現！

《具体的目標》

- 家族感、季節を感じられるイベントや環境づくり
 - ユニット毎の活動、環境設定を実施
- 生活スキルの向上
 - 地域移行モデルケースをつくる
- 利用者自身がホームの一員としてホームを考える
 - ホーム内清掃を利用者共同で実施
- 新規利用者の受け入れを行い満床へ

2019年度の取り組み

■総括

1年を通して児童が楽しく、安心して過ごすことができる場所を提供することができました。保護者や学校、他事業所と情報共有を行い、児童の成長や変化、障害特性に合わせて課題の内容や関わり方を適宜変えて支援を行いました。また、長期休業日においては模擬販売や社会科見学など、普段の放課後では体験が難しいことに取り組むことができました。

■目標達成

児童の自立性を高める

- ・自らの意志で選択する支援
⇒絵カード等による意思表示
⇒役割選択（台ふき、食事配膳等）
- ・家庭や学校でできない身近動作の獲得
⇒食具の使用（お箸やフォーク使用）
⇒排せつ行為（おむつからパンツへ）

働く体験を提供

- ・かき氷の模擬販売
通所事業所の利用者に対して、チケットを使用し50杯程度の販売体験を行う
- ・働く場の見学
キュール卒業児が働く職場（ひまわり乳業）を見学

支援の質を高めていく

- ・強度行動障害児支援の充実
対象児童4名（うち3名は定期利用）に対して、活動の構造化や視覚化に意識した支援を行う
- ・強度行動障害支援者を配置（加算を算定開始）

- ### ■活動
- ・屋内活動（課題提供、音絵本、カプラ、くみくみスロープ、パズル、トランポリン 等）
 - ・屋外活動（パークゴルフ、ボール遊び、散歩、公園等外出 等）
 - ・障害者スポーツセンター施設利用（体育館、プール、グラウンド）
 - ・音楽療法

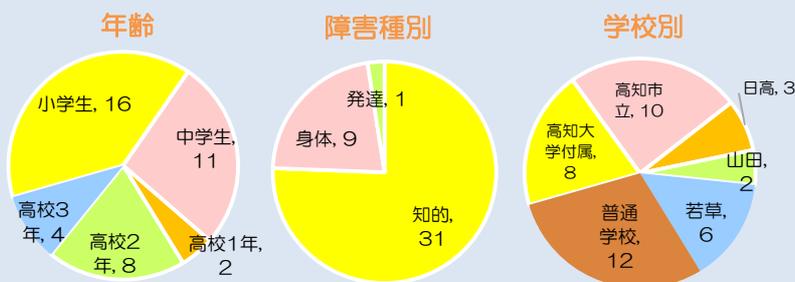


- ### ■利用実績
- ・登録利用児：41名（2020年3月末）
 - ・新規利用：4名
 - ・利用終了：17名（高校卒業9名、事業所変更1名、利用終了1名、年度末の意向確認6名）
 - ・年間のべ利用児数：3006人（年間稼働率約97%）

特徴と強み

・利用児について

小学生16名、中学生11名、高校生14名とほぼ均等。障害種別としては、知的障害が最も多く、強度行動障害児は4名が対象となっている。他、身体障害、発達障害の児童が利用している。中～高校生に定期利用をしている児童が多いため、目的をもったグループが作りやすい状況にある。



・他にはないキュールの支援環境

- ① 大人が通う就労支援や自立訓練事業所が身近にある
- ② 自然豊かな環境と隣接する障害者スポーツセンターを利用した活動プログラムが充実

2020年度へ

《目標》

楽しみながら働く基礎を身に付け、将来に備える就労準備型放課後デイサービスを立ち上げます

《具体的目標》

- 楽しみながら働く基礎を身につけ未来に備える
 - ・時間を確保しやすい土曜日を中心に「就労特化型」放課後等デイサービスとして活動する
- 安心して楽しく過ごせる場を提供
- 横の繋がりを活かした活動を行う
 - ・土曜の利用児数を増やし、稼働率100%以上を目指す
 - ・支援員と保護者を繋ぐコミュニケーションアプリ（キッズリー）を導入。写真等で活動の様子を伝え易くやすく、記録負担を軽減し支援者が児童と関わる時間を増やすことができる。

事故報告

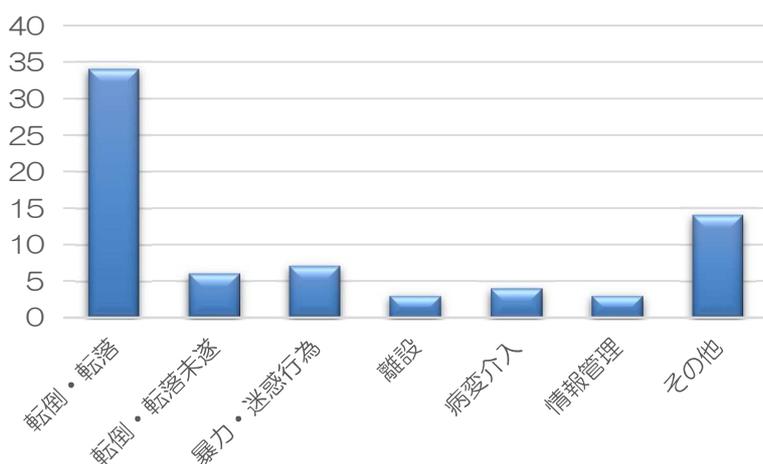
■総括

事故報告の分類や報告書式・報告先が不明確であり、社福全体で分類基準を統一して状況把握に努めました。「これって事故？報告？と迷ったら必ず報告する」事を意識して提出してもらいました。利用者に影響がなかったインシデント・アクシデント件数は81件で、事故レベルはグループホームでの骨折急性胆嚢炎発症が3件、続いてキュールでは利用児同士の暴力行為によるけがとなっています。いずれも病院受診と継続治療で後遺症等なく回復されています。

■事故発生状況

事故レベル	事故レベル定義	障害者施設	アルパーテ	はるの ハピリホーム	キュール	全体
0~1 (インシデント)	ヒヤリ・ハットする事はあったが利用者に影響はない。 何らかの可能性があり経過観察の結果影響はない	54	7	7	3	71
2 (アクシデント)	医療機関への受診が必要となった 受診の結果、縫合や固定処置などは必要なかった	5	0	2	3	10
3 (事故)	受託先や発注元とのトラブルやクレームに対して謝罪 や弁償を行った	0	0	0	0	0
4 (事故)	事故のため通院治療や長期にわたり治療や入院が必要 となった	0	0	3	2	5
5 (事故)	事故が死因となった 自傷・他傷（自殺企図や暴力）にて病院受診となった	0	0	0	0	0

■インシデント 71 件の内訳



【転倒の内容】

- ・障害者支援施設が27件
- ・車椅子からの移乗時に多く発生
- ・ホームでは入浴介助時が多い

【対策】

- ・障害に合わせた評価と具体的指導
- ・装具・車椅子、靴などの改善

2020年度へ

- ・事故等発生時において適切かつ迅速な対応をとるとともに、事故等の発生要因や再発防止策の実効性を検証し、利用者等に対するサービスの質の向上及び施設等の運営の適正化に努めます。

ご意見箱・苦情

■総括

ハビリの4カ所にご意見箱を設置し、利用者の方々からの意見をまとめています。ご意見箱に投書された意見はサービス管理責任者によって定期的に回収し、迅速に問題解決に取り組み、ご意見に対する回答を掲示しています。

■ご意見箱の内訳

ご意見箱内容分類				
要望	感謝	意見	不明	苦情
21	1	2	9	17



■第三者委員を交えた苦情解決

はるのハビリホーム入居中のご家族より支援内容にかかわる苦情の申し出「受付番号1」

「この、十年間のスタッフの対応（言動）に対する不満と説明を希望（手書きの文章を提供）。自分自身が不安定な状態でもあり、第三者の人に公平に判断していただくことで、自分自身の整理をしたい。決して職員を責めるつもりではなく、子供を暖かく見守ってほしい。この話し合いが子供はもちろん利用者、職員のみなさんが良い方向に向かうきっかけになることを願っている」との苦情が直接第三者の田中きよむ氏に申し出があった。

解決内容

母親からの苦情内容と実際の支援状況を、過去10年間のカルテ記事を電子カルテより印刷し該当項目について調査する。膨大な書類の量であること、支援者が変わったばかりであるため時間をかけて調査を進めた。また、支援（自閉症へのかかわり方、構造化支援など）の方向性について検討するには支援者側の学習機会が必要と考え、地域にある他施設の見学と事例の相談の機会を持った。このケースの支援の妥当性を検討する窓口には作業療法士を軸に置き、検討を繰り返し行った。2019年8月に苦情申し出があり約7か月を要し、2020年3月24日に苦情解決第三者委員田中きよむ氏に同席いただき、苦情に対する説明を行った。

申し立て者（母親）からの苦情に対して調査した内容を書面にてお渡しし、口頭で説明をする。

今回の苦情に対する説明にて母親の納得を得られ、さらに今後ハビリテレーリングセンターでの継続した支援を支持いただいた。今回母親からの問題提起を受けたことをマイナスに捉えず、真摯に課題解決に向けて取り組むことができたことに感謝し本苦情を解決したと判断した。

2020年度へ

- 苦情への適切な対応により利用者の満足度を高めることや、早急な虐待防止が講じられ、利用者の権利を養護するとともに、福祉サービスを適切に利用することが出来るよう支援に努めます。
- 苦情解決を密室化せず、社会や客観性を確保し、一定のルールに沿った方法で解決を進めることにより利用者主体の質の高いサービスの確保、及び支援に努めます。

職員採用・教育・監査

■総括

職員総数は61名で、新規職員採用は12名、退職者は9名（2018年度は18名）と減少しています。新規採用職員には採用後教育として約3か月間の社福全体の事業実務研修を行い、その後配属部署にて新人教育計画に基づいて新人教育を行っています。入職した職員の持っている能力が発揮できるよう、教育担当スタッフを中心に丁寧な指導にあたっています。

■職員状況

職員総数（61名）	
センター長	1名
部長	3名
主任	4名
サビ管	4名
相談支援員	1名
支援員	32名
パート職員	16名

■入・退職状況

入職者		退職者	
正規職員	1名	正規職員	5名
臨時職員	5名	臨時職員	2名
パート職員	6名	パート職員	2名
合計	12名	合計	9名

■採用後教育

- ・ハビリテーリングセンター9事業+法人本部+ウェブの実務研修
- ・研修終了後には研修発表会実施
- ・配属部署には教育担当職員を配置
- ・配属部署にて業務課題チェック表作成（1か月・3か月時に振り返り面接実施）
- ・半年経過時に個人目標管理シート作成

■資格の取得

資格取得者			
介護福祉士	社会福祉士	ジョブコーチ	社会福祉士実習指導者
田村彩菜	山添千菜	川村健太	蒲原弥華

■職員研修

- ・別紙「2019年度研修一覧」にて実績を示す

■監査

- ・行政監査実施なし（サビ管を中心に内部監査システム稼働開始）

学生実習

■総括

- ・中、高校生のインターンシップ実習から専門学校における臨地実習を引き受けました。
- ・専門学生の実習には、臨床実習指導者認定者を担当として丁寧な指導にあたりました。
- ・個人情報等の取り扱いは、事前に十分説明を行い同意書を交わして実習に臨みました。
- ・今年度「社会福祉士実習指導認定者」の資格を取得し来年度からの実習受け入れ態勢を整えました。

■実習受け入れ一覧

	学校名	実習内容	延日数	人数
1	近森病院附属看護学校3年生	在宅看護	42日	34名
2	近森病院附属看護学校2年生	小児看護	9日	42名
3	春野高校	インターンシップ	4日	11名
4	横浜中学校	インターンシップ	2日	3名
5	高知大学	介護等体験実習	20日	5名
6	高知中央高校看護学科専攻科	在宅看護	17日	12名
7	高知リハビリテーション学校	作業学科学外授業	1日	5名
8	高知東高校看護学科	基礎看護臨地実習	1日	30名
9	土佐リハビリテーション学校	作業療法学臨床実習	37日	1名

2019年度の取り組み

■総括

職員、利用者の健康管理を目標に感染委員会を中心に対策を行い、定期的な安全衛生委員会により作業管理、作業環境管理、労働衛生の確認をして頂き適宜ご指導を頂きました。特に2019年度は新型コロナウイルスの感染予防対策を重点的に行い、インフルエンザ等も含め、利用者の感染0で終える事が出来ました。

■安全衛生委員会

・実施状況

	実施日
第1回	2019年 4月25日
第2回	2019年 5月16日
第3回	2019年 6月20日
第4回	2019年 7月18日
第5回	2019年 8月22日
第6回	2019年 9月20日
第7回	2019年10月10日
第8回	2019年11月21日
第9回	2019年12月19日
第10回	2020年 1月16日
第11回	2020年 2月13日
第12回	2020年 3月19日

- ・実施内容
 - ・職員の健康状況（感染症・メンタルヘルス含む）を報告し必要に応じて助言を頂いた
 - ・前回指摘事項に対する改善状況を報告
 - ・安全衛生に関する資料や情報提供
 - ・施設内巡視

■感染委員会

- ・実施回数：2回（10月・1月）
- ・実施内容
 - ・施設内感染対策研修会へ参加（11月23日）
 - ・伝達講習を職員と利用者を対象に実施（12月）
 - ・マニュアル追加（インフルエンザ、ノロ発生時のディスポ食器使用フローチャート）

■体調不良者状況

インフルエンザ（A型）	職員 1名、職員家族 4名、利用者 0名
ノロウイルス、疥癬、風疹	0名
メンタルヘルス	1名（休職：8月20日～9月30日）
労災（申請中）	2名（打撲・擦過傷、腰痛）
その他	1名（てんかん既往者：迷走神経反射）

※ 毎日の健康チェック表、体調不良報告書（職員・利用者用）を改訂

※ てんかん既往者の運転について：業務として運転は行わない事とした

2020年度へ

- ・毎日の体調確認と感染対策を行い、利用者・職員ともに健康を維持し事業運営を行っていきます。
- ・安全衛生委員会を定期的を開催し、必要に応じて改善を行っていく事で作業環境の整備に努めます。

2019年度の取り組み

■総括

安心安全な食事の提供を行うとともに、定期的にイベント食を企画し利用者の食事満足度の向上につながる取り組みを委員会で協議し実施しました。

■実施状況

	実施日
第 1 回	2019年4月9日
第 2 回	2019年5月28日
第 3 回	2019年6月18日
第 4 回	2019年7月16日
第 5 回	2019年8月20日
第 6 回	2019年9月17日
第 7 回	2019年10月15日
第 8 回	2019年11月19日
第 9 回	2019年12月17日
第10回	2020年1月27日
第11回	2020年2月18日
第12回	2020年3月17日

配膳のセルフ化

イベント食
～ ひなまつり ～

■実施内容

- ① 食器等の交換ならびに新規導入
施設開設から10年が経過し、経年劣化(茶渋やｺｰﾃﾝｸﾞの剥離)による食器の交換と新規に食器の導入を行った。
なお、導入に際しては利用者からの意見も取り入れ、麻痺があっても使いやすい形状や色彩等を委員会で検討し導入した。
- ② 嗜好調査実施
施設入所の利用者だけでなく、昼食のみ利用される通所の方も含め実施した。
また、調査結果についてはすみやかに利用者へ公表した。
- ③ 食育への取り組み
骨のある魚を定期的に提供することで、施設外でも柔軟に対応できるような機会を提供した。
また、生活介護の利用者が栽培したさつまいもを給食の食材として利用した。
- ④ 感染症発生時の対策
これまで感染症が発生した場合における食事提供マニュアルがなかったため、今回作成し感染症マニュアルへ追加するとともに、使い捨て食器を新規に導入し利用できるような体制を整備した。

2020年度へ

- 給食委員会から栄養委員会へ名称を変更し、食に関する情報の提供や利用者のニーズに応じた取り組みを行っていきます
- 給食委託会社であるエームサービスとの連携を図り、質の高い食事の提供を継続します

2019年度の取り組み

■総括

2019年度、定期的に委員会を開催し、火災・地震・水害・土砂災害といった状況に合わせた避難訓練を計画、実施することができました。また、BCPの更新（非常食の在庫確認、参集名簿の更新など）や避難器具の実体験、非常設備の場所確認を行い、職員の危機意識を高めることができるように努めました。

■避難及び防災訓練

・実施状況

	実施日
水害訓練	2019年 6月28日
火災訓練	2019年 9月12日
防災訓練	2019年 12月11日 ・救命袋、散水栓の体験使用 ・備蓄品や消火器などの場所確認
地震火災訓練	2020年 3月25日

- ・実施内容
 - ・各災害時における避難訓練及び職員の役割確認（ロールプレイ）
 - ・三誠産業協力のもと、救命袋や散水栓を実際に使わせてもらう
 - ・施設内を巡回し、備蓄品や消火器、各報知器の場所を確認する

■災害対策委員会

- ・実施回数：11回（2019年5月～2020年3月 月1回）

- ・実施内容
 - ・BCPの更新（5月、11月）
 - ・各訓練の計画、実施、振り返り
 - ・防火管理責任者研修への参加（2名が新規取得）

■その他

- ・春野町要支援者、児童、生徒地震避難対策連絡会 参加
- ・高知県立障害者スポーツセンター 避難所運営マニュアル検討会 参加



2020年度へ

- ・災害時に起こりうる状況を情報収集し、より実際の想定に近い形での避難訓練を計画、実施
- ・BCPの見直し、更新
- ・各委員の災害対策、予防についての知識を高める
- ・行政や春野地域との情報交換を行い、災害時の役割を考える

2019年度の取り組み

■総括

2019年度ではハビリ内開催の担当行事数を減らし、高知県立障害者スポーツセンターと共催の「秋祭り」を中心として活動をしました。協議を重ね事前準備にも抜かりなく開催当日は今までにない来場者数を迎え大盛況となりました。

■委員会実施内容

	実施日
第1回	2019年 4月 8日 (年度計画)
第2回	2019年 8月 16日 (秋祭り話し合い1)
第3回	2019年 9月 19日 (秋祭り話し合い2)
第4回	2019年 9月 24日 (秋祭り運営会)
第5回	2019年 9月 26日 (秋祭り話し合い3)
第6回	2019年 9月 30日 (秋祭り話し合い4)
第7回	2019年 10月 16日 (秋祭りチラシ配布)
第8回	2019年 10月 23日 (秋祭りテント1)
第9回	2019年 10月 30日 (秋祭りテント2)
第10回	2019年 10月 20日 (ソフトボール大会)
第11回	2019年 10月 31日 (秋祭り買い出し1)
第12回	2019年 11月 1日 (秋祭り買い出し2)
第13回	2019年 11月 2日 (秋祭り会場設営)
第14回	2019年 11月 4日 (秋祭り当日)
第15回	2019年 11月 5日 (秋祭り片付け)
第16回	2019年 12月 3日 (餅つき打ち合わせ)
第17回	2019年 12月 28日 (もちつき道具準備1)
第18回	2020年 1月 6日 (もちつき事前準備2)
第19回	2020年 1月 7日 (もちつき当日)
第20回	2020年 1月 22日 (次年度への申し送り)

■実施イベント

- ・秋祭り (スポーツセンター共催) ・ハビリ芸術展 ・Tシャツアート展 ・よさこい演舞
- ・ソフトボール大会 ・クリスマスツリー&イルミネーション設置 ・もちつき
- ・地域イベントへの共催 (はるのすずめ元気会、春野町文化祭、すこやか春野ふれあい交流会、内ノ谷秋祭り、医療と音楽のつどい)

秋祭り



Tシャツアート展



よさこい祭り



もちつき



2020年度へ

- ・行事委員数を増やして活動内容の充実を目指します。
- ・ハビリでのイベントとして職員全体に周知し、協力依頼を早い段階で投げかけていきます。
- ・情報共有の体制を整えて委員会運営を円滑にします。
- ・社会福祉法人として春野地域との共生、地域住民への貢献を意識し、地域のお祭りや地域を考える会に積極的に参加します。

2019年度職員研修一覧

2019年4月1日～2020年3月31日

出張			市内研修			内部研修					
日時	出張内容	主催	参加者名	日時	研修内容	講師	参加者数	日時	研修内容	講師	参加者数
2019/4/19(1日間)	2019年度第1回中国・四国ブロック施設長会議	中国・四国ブロック地区身体障害者更生施設長会	西岡由江 蒲原弥華 島崎義広 元木智之	2019/4/16	第1回相談支援事業所 連絡会	高知市障害福祉課 地域生活支援室	半田明日翔	2019/7/18、25	熱中症対策研修	谷岡真代(職員:管理栄養士)	24名
2019/4/27(1日間)	神経心理学養成講座Ⅱ(第6回)	高次脳機能研究所	瀧川敬	2019/6/3、6/24、7/8、9/3、9/20、10/1、10/17	平成31年度高知県発達障害児等支援スキルアップ研修	高知県地域福祉部障害福祉課	片岡千佳	2019/7/25	接遇研修	オフィス熱気球 伊藤英子	31名
2019/5/9～10(2日間)	別府リハビリテーションセンター及び太陽の家(利用者情報交換及び施設見学)	国立障害者リハビリテーションセンター	島崎義広 孝橋義道 藤本佐和子 半田明日翔	2019/6/28	令和元年度 第1回連絡協議会	高知障害者就業・生活支援センター シャイン	瀧石公正	2019/8/21	介護技術研修(身体ケア)	永井病院 福島 舞道	31名
2019/10/2～4(3日間)	令和元年 障害者ヘルスプロモーション事業に関する研修会	中国・四国ブロック地区身体障害者更生施設長会	谷岡真代	2019/7/8	「障害者の権利擁護について」 「子どもの発達の見方-ESENCEの視点から-」	高知障害者就業・生活支援センター	加藤万奈	2019/10/9	虐待防止研修【必須】	オフィス熱気球 伊藤英子	全職員(後日ビデオ研修含む)
2019/10/3～4(2日間)	中国・四国ブロック地区 身体障害者更生施設長会及び職員研修会	中国・四国ブロック地区身体障害者更生施設長会	西岡由江 島崎義広 瀧川敬 橋本竜太	2019/7/10	「南海トラフ地震臨時情報」に関する事業者向け説明会	高知県危機管理・南海トラフ地震対策課	蒲原弥華 島崎義広	2019/12/13	感染予防研修	高知ハビリテーション・リハビリテーションセンター 感染委員会	29名
2019/10/8(1日間)	令和元年度 四国エリア就業支援実践研修 精神障害コース	独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構	川村健太	2019/7/12	「南海トラフ地震臨時情報」に関する事業者向け説明会	高知県危機管理・南海トラフ地震対策課	西岡由江 元木智之 尾崎弘章 笠松早由	2020/1/31	アンガーマネジメント研修	高知県人権啓発センター 松下睦	32名
2019/10/23～24(2日間)	第67回精神保健福祉全国大会	全国大会(厚生労働省・公益社団法人日本精神保健福祉連盟)	西岡由江 川淵佐織	2019/7/19	高知県相談支援従事者現任研修	高知県相談支援専門員協会	元木智之	2020/2/26	AED研修	高知市南消防署	新型コロナウィルス感染拡大防止のため中止
2019/10/25～26(2日間)	就労支援事業所見学(グッドジョブ！センター・香芝・NPO法人Salutサリュ)	特定非営利活動法人ジョブコーチ・ネットワーク	西岡由江 川淵佐織	2019/7/25	就業支援基礎研修	高知県相談支援センター	岡林姫花	2020/3/2	ハラスメント防止研修【必須】	高知県人権啓発センター 松下睦	新型コロナウィルス感染拡大防止のため中止
2019/11/17～22(6日間)	令和元年度 第4回JC-NETジョブコーチ養成研修(訪問型)	特定非営利活動法人ジョブコーチ・ネットワーク	川村健太	2019/8/12	相談支援従事者のための障害福祉基本研修	高知県相談支援専門員協会	川村健太 安岡航				
2019/11/21～22(2日間)	施設見学【Share金沢・アルペン会(医療法人本部・社会福祉法人本部)】	全国身体障害者更生施設長会	西岡由江	2019/8/20、9/3	令和元年度高知県相談支援従事者「初任者」研修 講義	高知県社会福祉法人高知県社会福祉協議会	瀧石公正 尾崎弘章 安岡航 川村健太				
2019/11/28～29(2日間)	身体障害者リハビリテーション研究集会2019	全国身体障害者更生施設長会	西岡由江 島崎義広 浅岡秀吉 柏木雷太 山崎志保 坂上博子 笠松早由 安岡彰	2019/10/30～31、12/4、2020/1/29～30	令和元年度高知県相談支援従事者「初任者」研修 演習	高知県社会福祉法人高知県社会福祉協議会	尾崎弘章 川村健太				
2019/11/30～12/1(2日間)	令和元年度 愛媛県サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者基礎研修	一般社団法人愛媛県社会福祉士会	安岡彰	2019/9/20	発達障がいになる子の家族支援	高知県地域福祉部障害福祉課	中内海人				
2019/12/7～8(2日間)	令和元年度 愛媛県サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者基礎研修	一般社団法人愛媛県社会福祉士会	川淵佐織	2019/9/27	高知県福祉・介護新任職員フォローアップ研修	高知県地域福祉部地域福祉政策課	谷口菜那 片岡千佳 佐々木麻実 岡林姫花 瀧田陽子				
2020/2/8～9(2日間)	社会福祉士実習指導者講習会	有限会社ホットラインワールド	蒲原弥華	2019/10/1	平成31年度高知県発達障害児等支援スキルアップ研修	高知県地域福祉部障害福祉課	島内文菜				
2020/2/7～9(3日間)	第24回 アメニティフォーラム	アメニティフォーラム実行委員会	島崎義広 元木智之	2019/10/3	令和元年度高知県サービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者基礎研修	高知県地域福祉部障害福祉課	川淵佐織 安岡航 瀧石公正 安岡航 川村健太				
2019/10/17～18	令和元年度中国・四国社会就労センター協議会 施設長研修会 高知大会	中国・四国社会就労センター協議会	蒲原弥華	2019/10/15	就業支援実践研修 高次脳機能障害コース	高知障害者就業センター	元木智之				
2019/10/19	基礎から学ぶ動作法	高知県フェニックス親の会	瀧川敬	2019/10/17	防火管理 甲種新規講習	高知県消防設備協会	別役永英 福西利孝 加藤万奈 山崎志保				
2019/10/28～29	指導的職員研修	高知県心理リハビリテーション研究会	川淵佐織	2019/10/22	腰痛予防対策講習会 ②社会福祉・医療保健業の衛生管理担当者向け	高知市	藤本佐和子				
2019/10/29～30	防火管理 甲種新規講習	高知県消防設備協会	岡田太郎 津野田正彦	2019/11/7	令和元年度第2回中堅職員ステップアップ研修	高知市	近森彩葉 山添千菜				
2019/11/7	令和元年度高知県身体障害者(児)施設協会 生活部会研修会	高知県身体障害者(児)施設協会	藤本佐和子	2019/11/14	高知市エリア医療関連感染対策研修	高知市	島崎義広 山崎志保 加藤万奈 安岡航				
2019/11/23	高知市エリア医療関連感染対策研修	高知市	近森彩葉 山添千菜	2019/11/22	腰痛予防対策講習会	徳廣知与	徳廣知与				
2019/11/14	発達障害に関するセミナー 年齢に合わせて獲得したいソーシャルスキルとライフスキル	発達障害に関するセミナー 年齢に合わせて獲得したいソーシャルスキルとライフスキル	島崎義広 山崎志保 加藤万奈 安岡航	19/11/27～28	防火管理 甲種新規講習	高知県消防設備協会	岡田太郎 津野田正彦				
2019/11/22	腰痛予防対策講習会 ②社会福祉・医療保健業の衛生管理担当者向け	高知市	近森彩葉 山添千菜	2019/11/28	令和元年度相談支援事業所研修会	高知市障害福祉課	半田明日翔				
19/11/27～28	防火管理 甲種新規講習	高知県消防設備協会	岡田太郎 津野田正彦	19/12/17～18	令和元年度強度行動障害支援者養成研修(実務研修)	高知県社会福祉法人高知県社会福祉協議会	片岡千佳				
2019/10/17～18	令和元年度中国・四国社会就労センター協議会 施設長研修会 高知大会	中国・四国社会就労センター協議会	蒲原弥華	2019/12/13	農福連携 日帰りバス研修	高知市福祉法人高知県社会福祉協議会	瀧石公正 孝橋義道				
2019/10/19	基礎から学ぶ動作法	高知県フェニックス親の会	瀧川敬	19/12/14～15	生活技術訓練 発達障害支援 ことばから成人までの適応と応用として	高知市福祉法人高知県社会福祉協議会	坂上博子				
2019/10/28～29	指導的職員研修	高知県心理リハビリテーション研究会	川淵佐織	20/1/14～15	令和元年度高知県発達障害児等支援スキルアップ研修	高知市福祉法人高知県社会福祉協議会	元木智之				
2019/10/29～30	防火管理 甲種新規講習	高知県消防設備協会	岡田太郎 津野田正彦	20/1/22～23	防火管理 甲種新規講習	高知県消防設備協会	笠松早由				
2019/11/7	令和元年度高知県身体障害者(児)施設協会 生活部会研修会	高知県身体障害者(児)施設協会	藤本佐和子	2020/1/27	岡山県精神科医療センター 視察研修	高知市保護観察所	西岡由江 島崎義広 田元孝子 笠松早由 山崎志保				
2019/11/23	高知市エリア医療関連感染対策研修	高知市	近森彩葉 山添千菜	2020/2/7	「自分トリセツ」をつくる。活かす・つなぐ～ナビゲーションブック(自己紹介シート)の活用～	高知障害者就業センター	瀧川敬 柏木雷太 藤本佐和子				
2019/11/14	発達障害に関するセミナー 年齢に合わせて獲得したいソーシャルスキルとライフスキル	発達障害に関するセミナー 年齢に合わせて獲得したいソーシャルスキルとライフスキル	島崎義広 山崎志保 加藤万奈 安岡航	2020/2/12	高知市精神障害者地域移行事業 地域いこうかい	高知市	川淵佐織				
2019/11/22	腰痛予防対策講習会	徳廣知与	徳廣知与	2020/2/21	第2回高知県福祉・介護新任職員フォローアップ研修	高知県地域福祉部地域福祉政策課	谷口菜那 佐々木麻実 瀧田陽子				
19/11/27～28	防火管理 甲種新規講習	高知県消防設備協会	岡田太郎 津野田正彦	2020/2/27	令和元年度 相談援助(ソーシャルワーク)応用研修	社会福祉法人高知県社会福祉協議会	藤本佐和子 半田明日翔				
2019/11/28	令和元年度相談支援事業所研修会	高知市障害福祉課	半田明日翔	2020/2/28	令和元年度 給食関係者研修会	高知市保健所生活食品課	谷岡真代				
19/12/17～18	令和元年度強度行動障害支援者養成研修(実務研修)	高知県社会福祉法人高知県社会福祉協議会	片岡千佳								
2019/12/13	農福連携 日帰りバス研修	高知市福祉法人高知県社会福祉協議会	瀧石公正 孝橋義道								
19/12/14～15	生活技術訓練 発達障害支援 ことばから成人までの適応と応用として	高知市福祉法人高知県社会福祉協議会	坂上博子								
2019/12/17	令和元年度高知県発達障害児等支援スキルアップ研修	高知市福祉法人高知県社会福祉協議会	元木智之								
2020/1/14～15	令和元年度高知県発達障害児等支援スキルアップ研修	高知市福祉法人高知県社会福祉協議会	笠松早由								
2020/1/24	令和元年度高知県身体障害者(児)施設協会 作業部会 高知県社会就労センター協議会 合同職員研修会	高知県身体障害者(児)施設協会 作業部会 高知県社会就労センター協議会 合同職員研修会	西岡由江 蒲原弥華								
20/1/22～23	防火管理 甲種新規講習	高知県消防設備協会	笠松早由								
2020/1/27	岡山県精神科医療センター 視察研修	高知市保護観察所	西岡由江 島崎義広 田元孝子 笠松早由 山崎志保								
2020/2/7	「自分トリセツ」をつくる。活かす・つなぐ～ナビゲーションブック(自己紹介シート)の活用～	高知障害者就業センター	瀧川敬 柏木雷太 藤本佐和子								
2020/2/12	高知市精神障害者地域移行事業 地域いこうかい	高知市	川淵佐織								
2020/2/21	第2回高知県福祉・介護新任職員フォローアップ研修	高知県地域福祉部地域福祉政策課	谷口菜那 佐々木麻実 瀧田陽子								
2020/2/27	令和元年度 相談援助(ソーシャルワーク)応用研修	社会福祉法人高知県社会福祉協議会	藤本佐和子 半田明日翔								
2020/2/28	令和元年度 給食関係者研修会	高知市保健所生活食品課	谷岡真代								